

「いしづみ」英訳者

死爆原徒生 に後世記録

義講で高観

核廃絶に向け、行動を呼び掛ける
クレアモントさん（左端）



旧制広島二中（現観音高）の生徒の原爆死を追った書籍「いしづみ」を英訳した、オーストラリアのシドニー大名誉上級講師クレアモント康子さん（73）が2日、広島市西区の同校を訪問し、1年生40人に日本語で講義をした。

クレアモントさんは「いしづみ」を「後世に残していくべき記録だ」と評価。出版社の依頼で担当した英訳について「言い回しなどを忠実に伝えられるよう、本を読み込んだ。323人の遺族の手記

犠牲者が子どもと分かるよう表現も工夫した」と説明した。

国連で採択された核兵器禁止条約や、制定に力を入れた非政府組織（NGO）のノーベル平和賞受賞など今年の動きにも言及

被爆樹木の保存願い寄付

「緑の伝言」中国四国博報堂と本社



津村部長（左）に寄付金を手渡す池田社長（右）と木原局長

をまとめた書籍。千振た。英語で正確に伝え優佳さん（15）は「本を読むための工夫がすごい読み、二中で大勢の人と感じた」と振り返りが亡くなったと知った。（政綱官規）

被爆樹木の保存に役立ててもらおうと、中国四国博報堂（広島市中区）と中国新聞社は21日、両社の共同企画「緑の伝言プロジェクト」で募った協賛金の一部20万円を広島市に寄付した。

中国四国博報堂の池田繁実社長と中国新聞社の木原慎二広告局長

が、中区の広島国際会議場で、協賛10社から集まった寄付金を市国際平和推進部の津村浩部長に手渡した。津村部長は「被爆建物などを含め、被害の実情を後世に残す取り組みに役立てたい」と感謝した。

プロジェクトは、被爆60年の2005年に始まった。毎年8月6日の中国新聞朝刊で被爆樹木を紹介する広告を掲載し、ポスターにして市内の小中高校に配っている。被爆樹木を巡るイベントも催している。（辻本夕貴）